

2009年度(2010年3月期) 第3四半期決算説明会



2010年1月29日
大正製薬株式会社
常務取締役 酒井 明人

2009年度第3四半期決算：概要



第3四半期(累計): 損益の概要

(億円)

	08年度 3Q	09年度 3Q	対前年同期増減	
売上高	1,998	2,029	+31	+2%
SMG*	1,274	1,247	▲27	▲2%
医薬事業	724	783	+59	+8%
営業利益	325	292	▲32	▲10%
経常利益	341	306	▲35	▲10%
四半期純利益	47	158	+111	+236%

注: 数字は億円未満四捨五入

* SMG: セルフメディケーション事業

2009年度第3四半期の概況(1)



・ セルフメディケーション事業

- パブロンシリーズ: 総合感冒薬の市場低迷、
予防関連の伸び鈍化
- ドリンク剤: 苦戦続く
- リアップシリーズ: リアップX5は順調な推移
→3Q売上高トータルは未達

<ご参考:市場の状況>

- OTC医薬品市場(第3四半期累計): 前年同期比0.4%減
 - ・ 総合感冒薬のマイナスが最大の要因
(医療機関の受診、予防の徹底など)
 - ・ インフルエンザ予防関連も伸びは鈍化

2009年度第3四半期の概況(2)



・ 医薬事業

- 注射用抗菌薬ゾシンは引き続き好調、
キノロン系経口抗菌薬ジェニナックも計画通り
 - クラリス、パルクスも健闘
- 大正富山医薬品の売上高は好調に推移

<ご参考:市場の状況>

- 医療用医薬品市場:前年同期比 8%増
 - ・当社の主力市場である抗菌薬市場は3%減
(経口2%減、注射4%減)

Copyright 2010 IMSジャパン株式会社
出典:JPM 2008年4-12月、2009年4-12月
無断転載禁止

2009年度3Q : 売上高・利益の増減要因



(期初からの9ヶ月累計、前年同期比増減額)

<p>売上高 (+31億円)</p>	<p>セルフメディケーション事業 (▲27億円) (主な増減要因) OTC薬等 ▲35億円 予防関連雑貨等 +5億円 リビタシリーズ +3億円 海外ドリンク剤 ▲5億円</p>	<p>医薬事業(+59億円) (主な増減要因) 大正富山医薬品 +62億円 ロイヤルティ収入 ▲11億円 中間製品等 +7億円</p>
<p>営業利益 (▲32億円)</p>	<p>売上総利益*: 15億円の減少 (売上総利益率* 前年同期66.7%→当期64.9%) 販管費: 17億円の増加 内訳 研究開発費 +12億円 販促費 +7億円 広告宣伝費 +7億円 人件費 +4億円 その他 ▲13億円 (のれん償却額減少等)</p>	
<p>営業外損益: 持分法投資損失縮小(前年同期▲31.79億円→当期▲30.84億円)</p>		

*返品調整引当金繰入・戻入調整後

主要ブランドおよび製品の売上高



(億円)

	3Q (4-12月)	対前年 増減額	通期予想		
			新予想	対従来 予想	対前年 増減額
リポビタンシリーズ	580	▲35	707	▲12	▲41
パブロンシリーズ	186	+4	255	▲11	+1
リアップシリーズ	99	+9	127	変更なし	+13
リビタシリーズ	23	+3	31	+1	+5
クラリス	180	+6	244	変更なし	+4
パルクス	86	▲1	110	変更なし	▲2
ゾシン	83	+59	102	変更なし	+62
ジェニナック	48	+15	54	変更なし	+17

注: 数字は億円未満四捨五入

2009年度：通期業績予想



SMGの売上高、および利益全般を下方修正

(億円)

	新予想	前期比増減		対従来予
売上高	2,590	+28	+1%	▲30
SMG*	1,589	▲22	▲1%	▲30
医薬事業	1,001	+50	+5%	変更なし
営業利益	335	▲44	▲12%	▲10
経常利益	355	▲44	▲11%	▲5
当期純利益	185	+97	+110%	▲10
EPS(円)	64.5	+34.5	+115%	▲3.5
(参考)				
大正富山医薬品売上高	870	+53	+6%	変更なし

注：数字は億円未満四捨五入

*SMG：セルフメディケーション事業

2009年度通期予想：売上高・利益の増減要因



(前年同期比増減額)

<p>売上高 (+28億円)</p>	<p>セルフメディケーション事業 (▲22億円) (主な増減要因) OTC薬等 ▲34億円 リビタシリーズ +5億円 海外ドリンク剤 ▲2億円</p>	<p>医薬事業(+50億円) (主な増減要因) 大正富山医薬品 +53億円 ロイヤルティ収入 ▲11億円 中間製品等 +7億円</p>
<p>営業利益 (▲44億円)</p>	<p>売上総利益*: 15億円の減少 (売上総利益率* 前年同期66.1%→当期64.9%) 販管費: 30億円の増加 内訳 研究開発費 +8億円 販促費 +11億円 広告宣伝費 +5億円 人件費 +7億円 その他 ▲1億円</p>	
<p>営業外損益: 持分法投資損失は40億円を織り込む</p>		

*返品調整引当金繰入・戻入調整後

主要ブランドおよび製品の売上高



(億円)

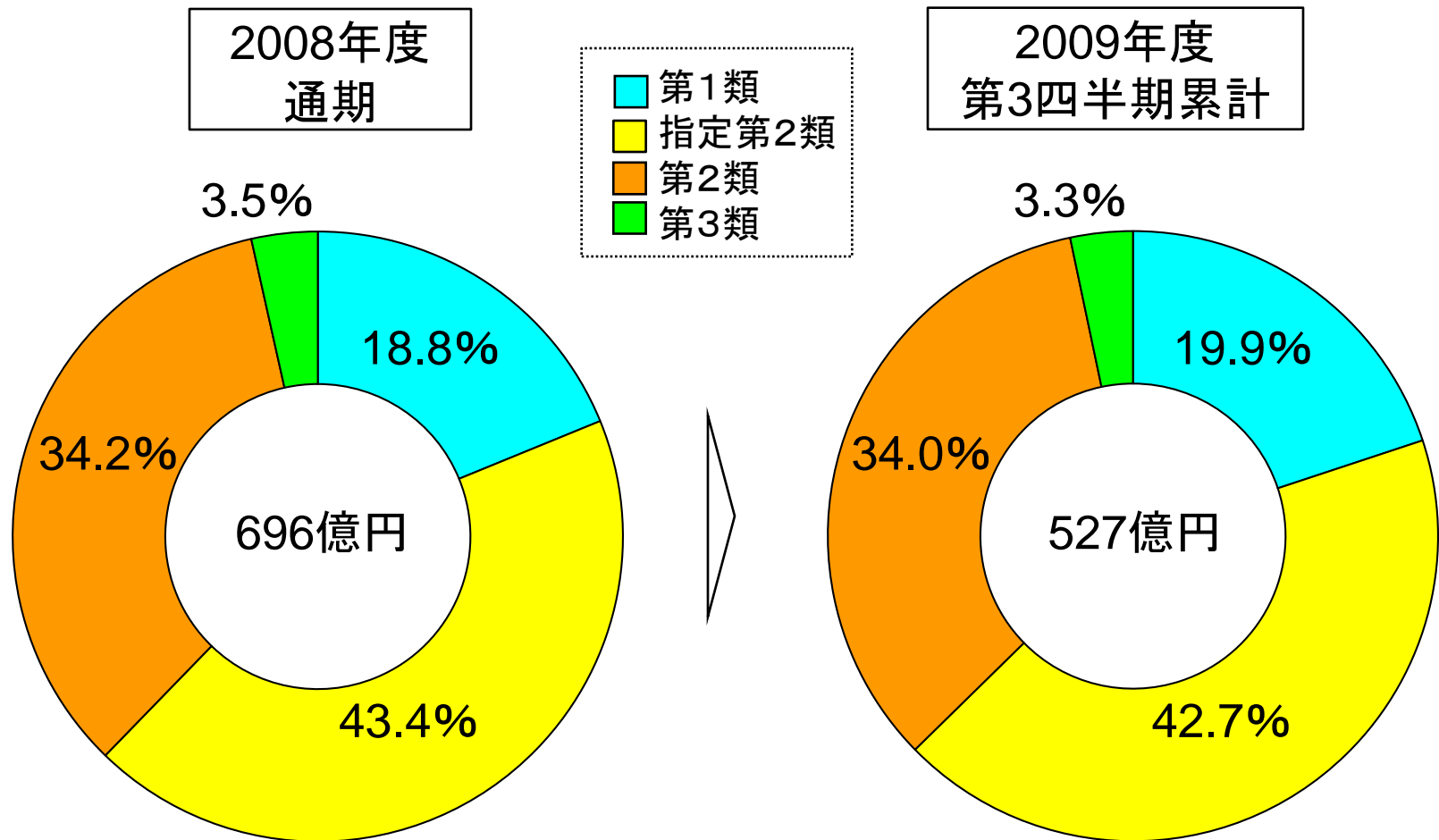
	3Q (4-12月)	対前年 増減額	通期予想		
			新予想	対従来 予想	対前年 増減額
リポビタンシリーズ	580	▲35	707	▲12	▲41
パブロンシリーズ	186	+4	255	▲11	+1
リアップシリーズ	99	+9	127	変更なし	+13
リビタシリーズ	23	+3	31	+1	+5
クラリス	180	+6	244	変更なし	+4
パルクス	86	▲1	110	変更なし	▲2
ゾシン	83	+59	102	変更なし	+62
ジェニナック	48	+15	54	変更なし	+17

注: 数字は億円未満四捨五入

当社の分類別売上構成比



- ・ リアップX5等の寄与で、第1類医薬品の比率は前年度通期に比べて上昇（2008年度通期18.8%→2009年度第3四半期累計は19.9%）



OTC医薬品市場：分類別構成比



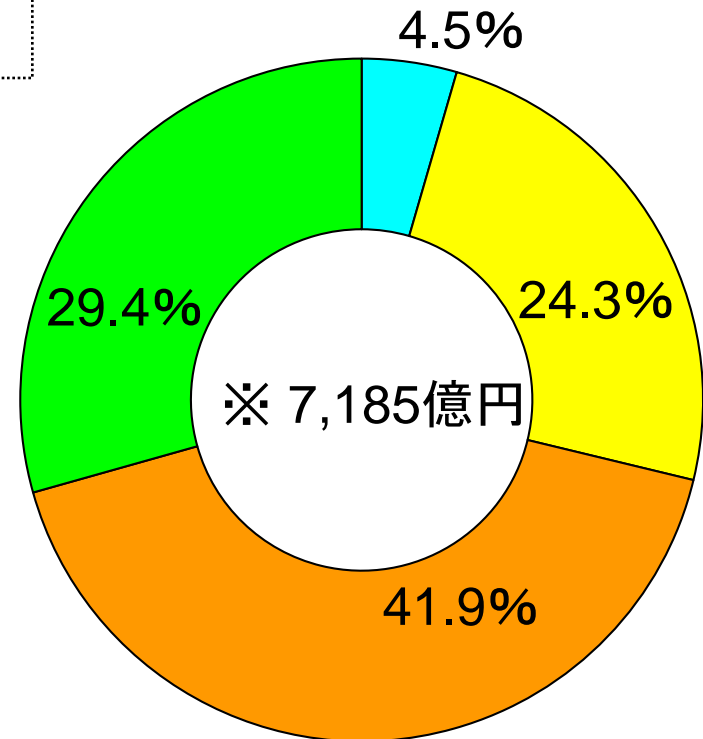
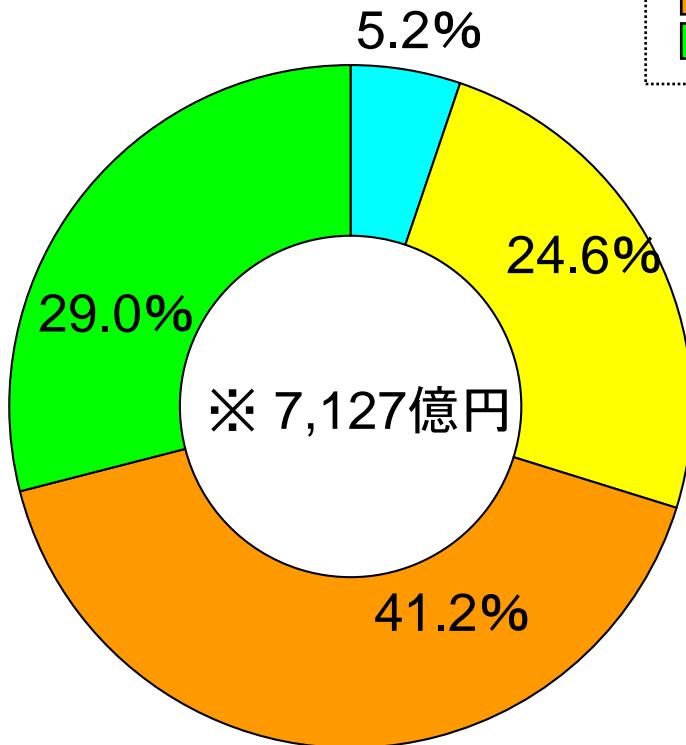
国内OTC医薬品市場における構成比 ※ 分類不明分は除く

2008年度
4-12月累計



2009年度
4-12月累計

第1類の
前年同期比
87%



(SDIデータをもとに当社推計,
売価額ベース)

第4四半期の動向および来期に向けて



・ セルフメディケーション事業

－ 主カブランド

- ・ リポビタンシリーズを含むドリンク剤:方針は変わらず
- ・ リアアップシリーズ:リアアップX5は目標に向けて順調

－ 新製品:来期以降、新規領域の新製品投入

・ 医薬事業

- － 感染症に続く、炎症・免疫領域の強化
(骨粗鬆症治療薬CT-081は09年10月申請)
- － 感染症市場での更なるシェア拡大へ

セルフメディケーション事業：新製品



<2009年度の新製品>

赤文字: 発売済みの製品

<p><第1四半期> ストパン、ジクロテクト リポビタンハーフ リアップX5 フラバン エイジ(通販) など</p>	<p><第3四半期> リポビタンゴールドエース ナチュラルケア粉末スティック<GABA> 和漢の活力(通販) など</p>
<p><第2四半期> リポビタンエース アンセリン粉末緑茶 など</p>	<p><第4四半期> べにふうき粉末緑茶 ダマリングランデパウダースプレー ドリンク剤 など</p>

医療用医薬品：新薬パイプライン(1)



国内

(2010年1月29日現在)

	特長他 予定適応症	開発形態	オリジン
申請中			
クラリス錠200 (経口)	<u>マクロライド系抗生物質</u> 3剤併用*1による胃MALTリンパ腫、早期胃癌に対する内視鏡的治療後胃、及び特発性血小板減少性紫斑病におけるヘリコバクター・ピロリの除菌(適応追加)	3剤併用療法に係る9社*2による公知申請	大正製薬
CT-081* (経口)	<u>活性型ビタミンD3誘導體</u> 骨粗鬆症	中外製薬共同	中外製薬
フェーズ2/3			
CT-064** (注射)	<u>ビスフォスフォネート系骨吸収抑制剤</u> 骨粗鬆症	中外製薬共同	ロシュ

*CT-081: 中外製薬における開発コードはED-71、中外製薬が申請

** CT-064: 中外製薬における開発コードはR484

*1 プロトンポンプ阻害薬(ランソプラゾール、オメプラゾール、ラベプラゾールナトリウム)及びアモキシシリン水和物を用いた3剤併用

*2 大正製薬、アボット ジャパン、アステラス製薬、アストラゼネカ、エーザイ、協和発酵キリン、塩野義製薬、武田薬品工業、田辺三菱製薬

医療用医薬品：新薬パイプライン(2)



国内(続き)

(2010年1月29日現在)

	特長他 予定適応症	開発形態	オリジン
フェーズ2			
TT-063 (外用)	<u>エスフルルビプロフェン含有消炎鎮痛貼付剤</u> 変形性関節症、肩関節周囲炎、筋肉痛等	トクホン共同	トクホン
NT-702 (経口)	<u>気管支拡張作用、細胞浸潤抑制作用</u> 気管支喘息	日産化学共同	日産化学
NT-702 (経口)	<u>血管拡張作用、血小板凝集抑制作用</u> 閉塞性動脈硬化症に伴う間歇性跛行	日産化学共同	日産化学
CT-064* (経口)	<u>ビスフォスフォネート系骨吸収抑制剤</u> 骨粗鬆症	中外製薬共同	ロシュ
TS-071 (経口)	<u>SGLT阻害作用</u> 1型糖尿病、2型糖尿病	自社	大正製薬

* CT-064: 中外製薬における開発コードはR484

医療用医薬品：新薬パイプライン(3)



国内(続き)

(2010年1月29日現在)

	特長他 予定適応症	開発形態	オリジン
フェーズ2(続き)			
TS-022 (外用)	<u>プロスタグランジン誘導体</u> アトピー性皮膚炎に伴う掻痒症	自社	大正製薬
パルクス (注射)	<u>プロスタグランジンE1製剤</u> 腰部脊柱管狭窄症に伴う間歇性跛行 (適応追加)	自社	大正製薬/ 田辺三菱製薬

海外

(2010年1月29日現在)

	特長他 予定適応症	開発形態	オリジン
フェーズ2			
TS-022 (外用)	<u>プロスタグランジン誘導体</u> アトピー性皮膚炎に伴う掻痒症	自社	大正製薬

BMS社のアジアOTC事業買収について



- BMS社からの移行は予定通り進捗
- 統括会社の状況
 - 2009年10月19日にシンガポール大正製薬(株)
(統括会社)を設立
 - 2010年1月よりインドネシア以外の取引開始

- 決算への影響

単位:億円

BS勘定科目	連結(取得時)	3Q償却額	第3四半期末 BS計上額
商標権(10年償却)	26.2	▲0.6	25.6
販売権(10年償却)	117.5	▲2.9	114.6
のれん(20年償却)	120.1	—	120.1
合 計	263.8	▲3.5	260.3

年間償却見込額 商標権:2.6億円 販売権:11.8億円 のれん: 6.0億円

なお、大正製薬インドネシア(株)の(10~12月)損益は当社第4四半期で取込